

「子供の実態把握と個別の指導計画作成について」

実際に日本語指導を行う際、どのように指導計画を立てていったらよいのだろう。



まずは、子供の実態を多角的に把握した上で指導計画を作成する必要があります！そのための方法の一つとして、今回は、子供の日頃の様子から実態を把握し、指導計画を立てる方法について御紹介します！



実態把握と指導計画の立て方 Part I ~日頃の様子から~

子供のことばの力を見ていくとき、多角的・包括的に見るが大前提となります。様々な背景（母語、環境、態度、学力等）も含めて、その上で日本語の力を正確に把握することが大切です。これらのことに気を付けながら、進めていきましょう。

★ 子供の日本語の力の段階を把握する指標として、6段階の「ステージ」で示した、「JSL 評価参照枠〈全体〉」があります。（外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA より）

JSL (Japanese as a second language) 「第二言語としての日本語」

★ 「JSL 評価参照枠」の6段階のステージと「個別の指導計画」の学習目標項目の段階と『外国人児童生徒受入れの手引き』の日本語プログラムとの関係について

「JSL 評価参照枠」		
ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	『外国人児童生徒受入れの手引き』の日本語プログラム
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	初期指導（前期）
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む。	初期指導（後期）
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる。	教科につながる初歩的な学習
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる。	教科につながる基礎的な学習
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる。	教科につながる学習
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる。	教科学習

出典：かすたねっと (<https://casta-net.mext.go.jp/>) に掲載されている

「個別の指導計画」作成参考資料①～④（日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議）引用

各ステージの概要

ステージ 1～2	日本語による意思疎通がむずかしく、サバイバル日本語の段階。在籍学級での学習はほぼ不可能で、手厚い指導が必要。
ステージ 3	短文の理解が難しく、発話にも誤用が多くみられるレベル。クラス活動に部分的参加を始めつつ、個別的な指導をすることが必要。
ステージ 4	日常生活に必要な基本的な日本語がわかり、自らも発話ができる段階。話し言葉を通したクラス活動にはある程度参加できるレベル。しかし、授業を理解して学習するには読み書きにおいて困難が見られ、個別的な指導が必要。
ステージ 5～6	教科内容に関連した内容が理解できるようになり、授業にも興味をもって参加しようとするレベル。読み書きにも抵抗が少なく、自律的な学習が可能である。

# ① 子供が現在、どのステージなのかを評価する。

「個別の指導計画」作成参考資料②（日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議）を参考にして、日頃の子供の様子から、「話す」、「読む」、「書く」、「聴く」の4技能に分けて、日本語の力を評価します。

＜読む＞（文字・表記 + 読み・読解力）			
JSL 評価参照のステージ	指導の段階	「個別の指導計画」のための学習目標項目例	○他技能との関係 ●指導のヒント
1	初期指導（前期）	a 日本語で書かれた自分の名前や普段よく使う単語を識別する。	○「聞く」力が「読む」力よりも強い。 ●学校図書館の利用方法について教え、日本語が読めなくとも楽しむことのできる図書を紹介する。 ●文字や簡単な単語が母語で読めない場合は、日本語の文字の習得にも時間がかかると考え、指導計画を作成する。
		b 文字と音とが対応することを理解する。 (例：平仮名の「あ」を見て/a/と発音する。) (小学校低学年の場合)	
		c 平仮名をいくつか読む。	
		d よく耳にする馴染みのある短い平仮名の語を読む。	
		e 視覚的な支援のある絵本や紙芝居などの読み聞かせを楽しむ。	
2	初期指導（後期）	a 特殊音節（長音、拗音、撥音、促音）を含む平仮名の単語を読む。	○漢字の読みと書きについては、書きの方が習得に時間がかかる。しかし、漢字圏出身の子どもは、書きの方が早い場合も多い。 ○「読む」力は、年齢や母語の学習体験によって習得の度合いが異なる。特に小学校低学年の場合は、2i, 2j, 2kに、より時間がかかる。 ●漢字は学年より下でも、内容は年齢相応の話題を選ぶ。 ●母語と共通の数字や記号（+×÷=など）を組み合わせて、数の読み方を練習させながら、基本的な計算力のチェックができる。また、それにより、日本語の学習だけでなく文章題が扱えない間、計算問題で既習学力の維持を図ることできる。
		b 分から書きで書かれた短い文を音読する。	
		c 句点や読点について理解する。	
		d 助詞の「は」、「へ」を文中で正しく読む。	
		e 縦書き・横書き、一字下げ、句読点など、表記法のルールを理解する。	
		f 片仮名をいくつか読む。	
		g 片仮名で書く語彙の種類を理解する。	
		h 特殊音節（長音、拗音、撥音、促音）を含む片仮名の語彙を読む。	
		i 小学校1年で学習する漢字をいくつか読む。 (象形文字や指示文字)	
		j 絵などの支援を得て、日常生活でよく使われる語彙で書かれた短文を読んで理解する。	
		k 絵などの支援を得て、片仮名や小学校1、2年の学習漢字が混じった文を読んで大意を理解する。	
3	教科につながる初歩的な学習	a 文節や意味のまとまりで区切って読む。	●幼児期に本に親しむ経験のない子どもには、読み聞かせをするよりよい。 ●小1、2程度の漢字学習が終了したら、あとは学年別漢字配当にこだわらず、現在学習している教科で頻出している漢字を学ばせるようにする。(特に、算数・数学は頻繁に使われる漢字がある。)
		b 日常生活でよく使われる語彙（教科名、曜日、標識など）を読んで意味が分かる。	
		c 学年より下の学習漢字が混じった短文を読んで大意を理解する。	
		d 絵ややりとりなどの助けを得て、学年より下のレベルの親しみのある内容のテキストを読んで大意を理解する。	
		e 未習の語彙を推測によって読む。	●沢山の本文や文章を読む機会を作り、読書量を増やし、読書習慣をつける。
		f 単語の並び順や見出し語（活用のないことば）を理解して、辞書（日本語から母語）を使う。 (小学校中学年以上、母語で読む力がある場合)	
教科に		a 教科用語の入った短い文章を読んで、大意を理解する。	○「読む」力が「聴く」力に近づいていく。 ○高学年や母語の読みの力の高い母語で母語
		b 漢字の基本的構成（部首、音訓、筆順、送り仮名など）を理解する。	

- a, b, c, ...と進んでいく順序性があるものではありません。
- 評価や目標は、該当ステージの中の項目を、いくつか組み合わせで作成してもよいです。

★ 「かすたねっと」に掲載されている「個別の指導計画」作成参考資料①～④（日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議）を使いやすいようひとまとめに加工したものをExcelで作成しました。

(別紙「個別の指導計画を作成する際の参考資料」参照)

「読む」を例に、評価をしてみましょう！Aさんの日頃の様子はどうか？学習目標項目例を見て、「読む」に関して、日頃の様子から当てはまる特徴的なものを選んでください。

「ステージ1」はできています。  
「ステージ2」は、e, k, i 以外は、ほぼできますね。  
「ステージ3」は、まだまだのようです。

では、今の「読む」力は、「ステージ2」程度と言えますね。

## ② 目標を設定する。

次に、目標を設定します。一つ上の「ステージ3」を目標にするとよいですね！子供の力が包括的に伸びるように、a～dを参考にしながら目標を立てましょう！

Aさんは、特にcとdに重点をおいた目標にしたいと思います。

これらの情報を、個別の指導計画 様式2（指導の記録）に記載しましょう！

★ 子供の実態・目標・指導計画を網羅して記録できるよう、個別の指導計画【広島県版】(様式2：指導に関する様式)の参考様式を作成しました。

これなら、日頃の子供の様子から、評価できそうです！他の技能も同様にやっていけばいいですね！！

指導に関する記録の「様式2」を新たに作成しました。  
日本語の4つの力に分けて、「評価→目標→指導計画」が記載できるように  
しています。

広島県版

個別の指導計画

【学校内で作成する指導計画 記入例】

様式2 (指導に関する記録)

学年組	年 組	作成日	令和 年 月 日	校長
フリガナ		更新日	令和 年 月 日	年度初 前期末 後期末
児童生徒名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の実態を把握する際には、様々な背景（母語、環境、態度、学力等）を含めて、多角的・包括的に見ていきましょう。</li> <li>・日本語の力は複数の人で多面的に判断することが望ましいです。</li> <li>・4技能の観点から、特徴的な様子を記入しましょう。</li> <li>・ステージは、「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議」作成の「学習目標例」を参考にしてもよいでしょう。いくつかの項目を選び、組み合わせてもよいです。</li> </ul>			指導時数
指導者 支援者				間

技能	ステージ	日本語の力	DLA (JSL対応型アセスメント)
話す	3	聞きなれた言葉を組み合わせて、自分自身のことや身近な出来事について、主に単文を使って話すことができる。	3【●月●日】
読む	2	助詞の「は」「へ」等を正しく読んだり、絵などの支援を得て、日常でよく使われる語彙で書かれた単文を読んで理解したりすることができる。	2【▲月▲日】
書く	2	日常よく使われる表現を使って、話し言葉をそのまま文字にしよう	「DLA」を実施した場合は、記録に残します。4領域全てを実施する必要はありません。実態に応じて選択的に行ってください。(DLAについては、別途御紹介します。)
聴く	3	体育、音楽などの実技系の授業で、教師の話を理解し指示で活動することができる。	

技能	ステージ	指導目標
話す	4	授業の中でグループ学習に参加し、教科と関連のあるテーマで自分の意思や相手に伝えるべき内容を、簡単な日本語で発表することができる。
読む	3	絵ややりとりなどの助けを得て、日常でよく使われる語彙や表現を使って書かれた、1年生レベルのテキスト（お話）を読んで、大意を理解することができる。
書く	3	学校行事など経験した事柄について、支援を得ながら、順序に沿って、簡単な構成の文章を書くことができる。
聴く	4	授業テーマに関連した内容について、平易な言葉で説明を聴いて大意を理解したり、グループでの話し合いに参加して、大意を理解したりすることができる。

日本語指導プログラム		4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
	サ	
	基	→
	技	→
	統	→
補		

「外国人児童生徒受入の手引き（改訂版）」（文部科学省）を参考に、5つのプログラムを組み合わせる指導計画を立ててもよいです。  
※ 指導期間を→で記入しましょう。

サ…サバイバル日本語 基…日本語基礎 技…技能別日本語 統…日本語と教科の統合学習 補…教科の補習

「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議」作成の「学習目標例」を参考に、言語の4技能がバランスよく指導できるように目標設定を行いましょ。

「特別の教育課程」による日本語指導												
指導計画												
話す	在籍学級の教科学習の中で自分の意見を発表できるように、取り出し指導の際に、先行型学習を行い、2～3文のスピーチ原稿をつくるよう指導する。											
読む	在籍学級の授業に入る前に先行型の学習を実施し、1年で学習する漢字の混ざったリライト文を使って、内容を理解する時間を設定して指導する。また、年間を通して、子供のレベルに合った本を読んで内容について話し合ったり、大まかな話を読書カードに書いてまとめたりする活動を取り入れる。(書く活動)											
書く	教師が示すモデル文を参考にしながら、体験した事柄について、順序に沿って簡単な構成の文章を書くように指導する。											
聴く	学習内容の見通しと興味をもたせる活動を取り入れながら、授業のテーマに関連した教科用語や表現を先行して取り上げ、意味理解を促すように指導する。											
評価(指導内容・指導方法・学習状況等)												
前期						後期						
<p>・学習目標に対する具体的な指導内容や方法、学習状況、評価等について記入しましょう。</p> <p>・授業中の観察や発表、作文、スピーチなどから多面的に評価を行いましょ。</p> <p>・個人の意欲や努力、到達度を大切に考えた個人内評価で記入しましょ。</p>												
指導・課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科は週2回入り込みによる指導。</li> <li>・地域の日本語教室「○○」に参加。(毎週木曜日○時間)</li> <li>・地域と連携した母語・母文化の支援。</li> <li>・家庭でも母語を使った支援ができるように連携する。(母語でも読み聞かせ、母語で学校の話をする等)</li> </ul>											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取り出し指導の授業時数												

在籍学級での指導や、学校外で学んでいる場合も記録してください。

このように、日本語の力を多角的・包括的に見取り、指導目標を立てることで、どのような指導を行う必要があるのかが明確になりますね。

※ 個別の指導計画【広島県版】(様式2:指導に関する様式)と、「個別の指導計画」作成参考資料①～④(日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議)を加工してまとめたものは、広島県教育委員会のHPにも掲載しておりますので、是非、御活用ください。